

22 ロッキンバー

—ヘロン夫人の歌—

若者ロッキンバーが西からやって来ました
ボーダー地方広しといえど 彼の馬こそ最高の馬
携^{たずさ}えるのは見事な幅広剣ただ一振り
他に武器無く 他に助っ人無く
かくも一途^{いちず}に愛し 怯^{ひる}まず闘う男 5
世に若者ロッキンバーほどの騎士はいませんでした

藪に足留めくろうことなく 岩^{あし}に脚止めくろうことなく
エスク川は浅瀬が無くても泳いで渡った
しかし ネザビーの城門で馬を降りるその直^{まえ}前に
女は花嫁になることを承諾し 男の到着は一足遅かった 10
愛することにも闘うことにも鈍^{のろま}間な腰抜け野郎が
勇敢なロッキンバーの恋人エレンと結婚することになったのです

大胆にもロッキンバーは ネザビー城の大広間に踏み込んだ
花嫁の付き添いの者たち 親族兄弟みな居並ぶ中に
花嫁の父親^{つか}が柄に手をかけ 口を開いた 15
(哀れ臆病者の花婿からはひと言も無かったから)
「祝いに参られたか それとも 果たし合いに
それとも 披露宴の舞踏にご参加か お若きロッキンバー卿よ」

「長きにわたって貴殿の娘に求愛し 貴殿^{こぼ}に拒まれ続けてきた
愛はソルウェイ湾^{うしお}の潮のごとし 満ち潮のあとは引く運命^{さだめ} 20
かくなる失意の念を抱きて参上いたすは
一曲踊り 一献^{いっこん}祝杯を上げんがためなり
スコットランドには 貴殿の娘より遥かに美しい娘^{むすめご}子はいくらでも
みな喜んで 若者ロッキンバーの花嫁になるだろう」

花嫁がゴブレットに口付けをし 騎士はそれを取り上げて 25
ワインをひと息に飲み干すや グラスを投げ捨てた
花嫁は顔赤らめて目を落とし ため息ついて目を上げた
その口元には笑みを 目には涙をたたえていた
母親が止める間も無く 花嫁の柔らかい手を取って

若者ロッキンバーが誘った「さあ一曲踊ろう」 30

若者の立ち姿は堂々と 花嫁の顔はかくも美しく
そのような素敵な舞^{ガリアルド}踏が広間で踊られたことはかつて無い
花嫁の母親は苛^{いらだ}立ち 父親は憤^{いぎどお}り
花婿は羽飾りを付けた帽子をぶらぶらさせて立ち尽くす
花嫁の付き添い女たちは囁^{ささや}いている 「遥かにお似合いよ 35
美しい従姉^{いとこ}のお相手には若きロッキンバー様こそ相応しい」^{ふさわ}

花嫁の手に合図を送り 耳元にひと言ささやき
広間の入口に近づくと 近くに馬が待機中
若者は 美しい花嫁を後ろに軽々と持ち上げ
自分は 前の鞍に軽々とまたがった 40
「花嫁は頂^{いただ}き いざ行かん 野越え山越え断崖越えて
奴らが 早馬駆って追ってくる」 と若きロッキンバーは意気揚々

ネザビーのグレイム一族の村を抜け
フォースター フェニック マスグレイブ一族の村を次々と抜け
キャノンビー村の放牧地を追いつ追われつ 45
ついに ネザビーの消えた花嫁の姿を再び見るものはいなかった
かくも大胆不敵に愛し 怯^{ひる}まず闘った男
若者ロッキンバーほどの勇敢な男の話が今まであったでしょうか

(山中光義訳)